

尼崎病院と塚口病院の統合再編基本構想

平成 22 年 2 月

兵庫県病院局

目 次

1	尼崎病院と塚口病院の現状と課題	
(1)	現状	1
(2)	課題	6
2	必要な診療機能	
(1)	阪神南圏域の医療の現状	8
(2)	疾病別医療提供体制における現状と課題	11
3	統合再編の基本的な考え方	
(1)	両病院の統合	16
(2)	新病院の主な役割	16
4	新病院における主な診療機能等	
(1)	小児医療	16
(2)	周産期医療	17
(3)	救急医療	17
(4)	4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)	17
(5)	その他政策医療等	18
(6)	医療人材の確保・育成	18
5	施設整備の概要	
(1)	施設整備方針	19
(2)	病床規模	19
(3)	施設概要	20
(4)	立地場所	20
(5)	整備スケジュール	20
6	統合再編にあたっての諸課題	
(1)	整備財源の確保	21
(2)	跡地利用	21
(3)	両病院の機能連携	21
(4)	地元自治体との協調	21

1 尼崎病院と塚口病院の現状と課題

(1) 現状

診療機能

ア 尼崎病院

がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病等において専門医療や急性期医療を提供するほか第2種感染症指定医療機関として感染症医療を提供するなど、阪神南圏域の中核病院として高度専門医療を中心とした政策医療を提供している。

イ 塚口病院

地域周産期母子医療センター並びに地域小児医療センターとして、阪神地域における周産期医療と小児(救急)医療の中核的な役割を担うなど、成育医療を中心とした政策医療を提供している。

【兵庫県保健医療計画における役割】

区 分	尼崎病院	塚口病院	
4 疾 病	が ん	・専門的ながん診療の機能を有する医療機関	・専門的ながん診療の機能を有する医療機関
	脳 卒 中	・脳卒中の急性期医療を担う医療機関	-
	急 性 心 筋 梗 塞	・急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関 ・急性心筋梗塞の回復期医療を担う医療機関	-
	糖 尿 病	・糖尿病の専門治療を担う医療機関 ・糖尿病の急性増悪時治療を担う医療機関 ・糖尿病の慢性合併症治療を担う医療機関	・糖尿病の専門治療を担う医療機関
周 産 期	-	・地域周産期母子医療センター ・成育医療の実施	
小 児 (小児救急)	-	・地域小児医療センター ・小児2次救急輪番制参加病院 ・阪神地域全体の小児救急の後方支援病院	
そ の 他	・エイズ治療拠点病院 ・臓器提供施設 ・神経難病医療の拠点病院 ・第2種感染症指定医療機関	-	

施設概要

ア 尼崎病院

稼働病床数は500床、診療科目は26科である。

病院敷地は全て県有地、用途地域は第一種住居地域で容積率は200%である。

建物は地下1階地上8階建て、昭和61年に現在地に移転新築している。

イ 塚口病院

稼働病床数は300床、診療科目は18科である。

病院敷地約12千²mのうち約9千²mが県有地、約3千²mが市有地であり、用途地域は第一種中高層住居専用地域で容積率は200%である。

主な建物は、病棟が地下2階地上9階建て、診療管理棟(1)(2)が地下1階地上3階建て、いずれも昭和56年の耐震基準改正前の建物であることから、早急に耐震化のための整備が必要である。

【稼働病症数及び診療科目】

区分	尼崎病院	塚口病院
稼働病床数	(一般) 492床 (感染症) 8床 合計 500床	(一般) 300床
	計26科	計18科
診療科目	内科 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、 小児循環器内科、腎臓内科、神経内科、 血液内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科	内科、消化器内科、心療内科
	外科 外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、 乳腺外科、整形外科、形成外科	外科、乳腺外科、小児外科、整形外科
	その他 精神科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、 病理診断科	アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、 産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、 放射線科、麻酔科、病理診断科

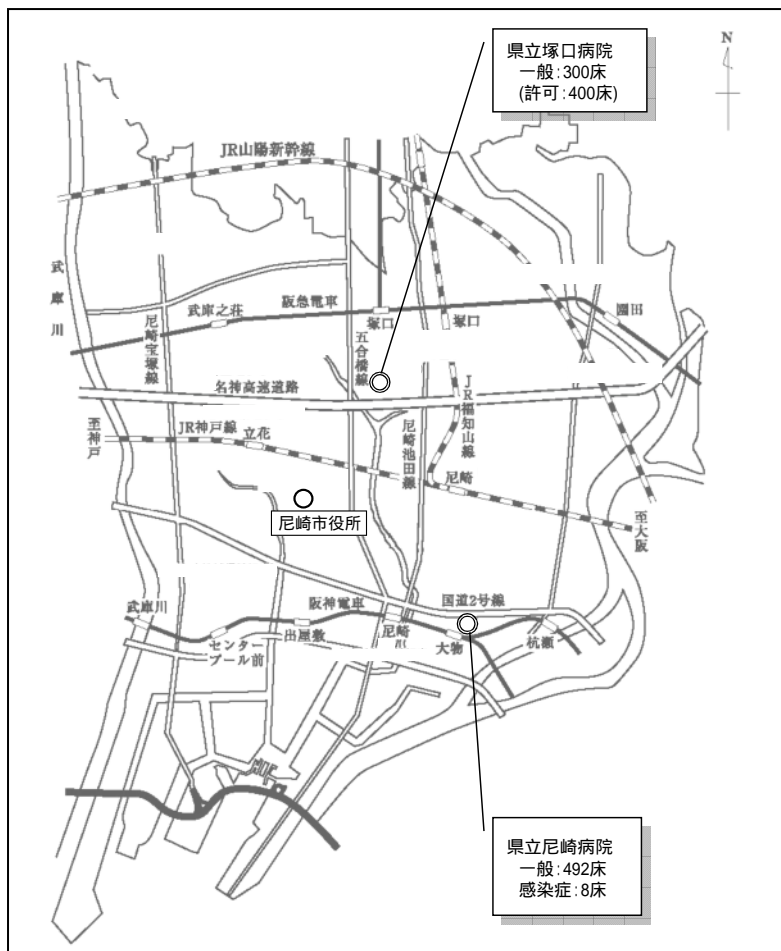
【土地】

	尼崎病院	塚口病院
病院所在地	尼崎市東大物町1丁目1-1	尼崎市南塚口町6丁目8-17
病院敷地	17,928.45 m ² (県有地)	11,940.49 m ² (県有地 8,868.22 m ²) (尼崎市有地 3,072.27 m ²)
用途地域	第一種住居地域 (建ぺい率60%、容積率200%)	第一種中高層住居専用地域 (建ぺい率60%、容積率200%)

【建 物】

	建 築 物	建築面積	延床面積	建設年月	備考
尼崎病院	病院本館	7,491.50 m ²	32,520.61 m ²	昭和61年10月	
	その他	469.32 m ²	827.72 m ²	-	東洋医学研究所等
	合計	7,960.82 m ²	33,348.33 m ²	-	
塚口病院	病 棟	885.93 m ²	8,988.95 m ²	昭和48年5月	耐震化診断により
	診療管理棟(1)	1,192.09 m ²	5,189.65 m ²	昭和51年3月	早急に整備を要す
	診療管理棟(2)	1,156.01 m ²	4,377.45 m ²	昭和43年11月	るとされている
	その他	827.96 m ²	1,348.91 m ²	-	保育室等
	合計	4,061.99 m ²	19,904.96 m ²	-	

【位置図】

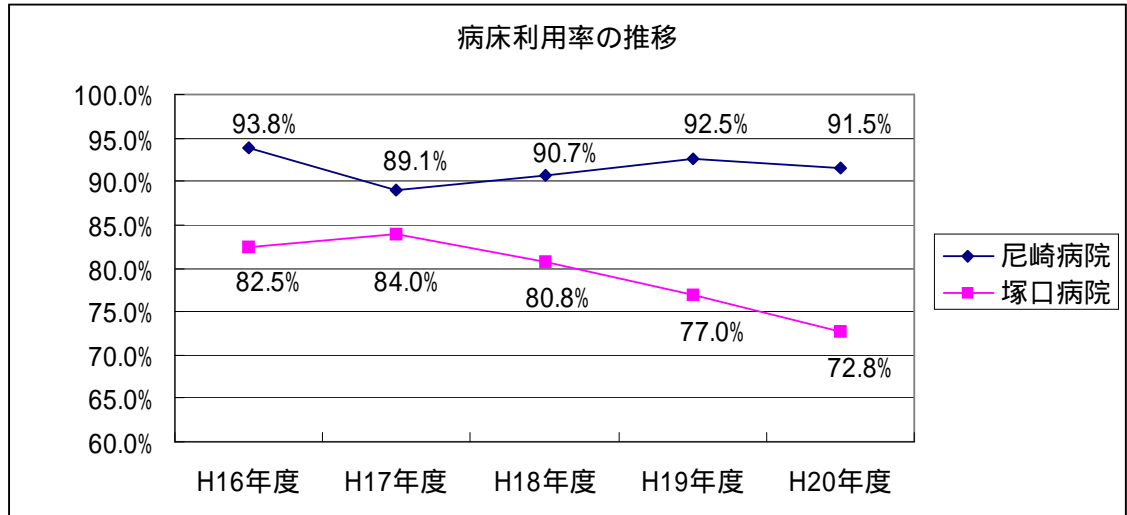


経営状況

ア 患者数

尼崎病院は高い病床利用率で推移しており、患者数も概ね横ばいで推移している。

塚口病院は、平成16年度と比べ、小児、周産期医療以外の患者数の減少により、入院は平成20年度に比べて30,191人の減少（27%）、外来は41,601人の減少（20%）となっており、患者数が年々減少している。



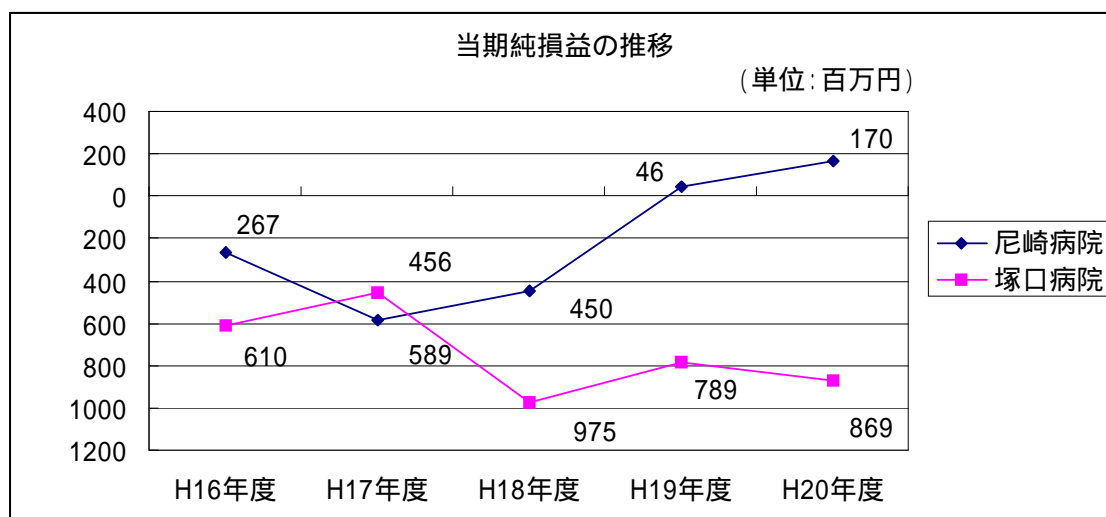
(単位：人、%)

区	分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
尼崎病院	延入院患者数	171,262	162,633	159,513	169,271	167,066
	(病床利用率)	(93.8)	(89.1)	(90.7)	(92.5)	(91.5)
	延外来患者数	318,926	285,131	274,719	286,364	281,044
塚口病院	延入院患者数	109,924	111,936	91,740	84,527	79,733
	(病床利用率)	(82.5)	(84.0)	(80.8)	(77.0)	(72.8)
	延外来患者数	204,251	205,822	190,408	172,752	162,650

イ 収支

尼崎病院の経営状況は概ね好調で、今後とも当期純損益の黒字基調が維持されるものと見込まれる。

塚口病院は、収支においても当期純損益の赤字が拡大していることから、収支の改善が課題となっている。



(単位：百万円)

区	分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
尼崎病院	収 益	入院収益	7,290	7,460	7,618	8,538	9,145
		外来収益	2,471	2,535	2,631	2,783	2,995
		その他収益	539	427	444	508	422
		合 計	10,300	10,422	10,693	11,829	12,562
	費 用	11,464	11,844	12,032	12,785	13,348	
	繰入前損益	1,164	1,422	1,339	956	786	
	一般会計繰入金	897	833	889	1,002	956	
	当期純損益	267	589	450	46	170	
塚口病院	収 益	入院収益	3,574	3,713	3,191	3,332	3,307
		外来収益	1,341	1,475	1,407	1,317	1,317
		その他収益	342	182	253	221	192
		合 計	5,257	5,370	4,851	4,870	4,816
	費 用	6,174	6,138	6,207	6,102	6,125	
	繰入前損益	917	768	1,356	1,232	1,309	
	一般会計繰入金	307	312	381	443	440	
	当期純損益	610	456	975	789	869	

(2) 課題

兵庫県においては、近年の疾病構造の変化、医療を取り巻く環境の変化、県内における医療供給体制の状況等を踏まえ、病院事業及び各県立病院の進むべき方向を明確にするため、平成17年2月に「県立病院の基本的方向」を策定した。

この中で、県立病院が提供する医療内容や診療機能などについて見直しを行い、高度専門・特殊医療を中心とした政策医療を担う病院として可能な限り機能の純化や高度化を図ることとされ、尼崎病院については、塚口病院から脳血管疾患や肺がんに対する医療を移管し、循環器疾患やがんに対する専門医療をさらに充実することとされた。また、塚口病院については、NICUの整備等により、「地域周産期母子医療センター」の指定を受けるとともに、阪神地域における小児救急医療の基幹的な役割を果たすなど、こども病院との連携のもと「成育医療」を提供することとされた。

これらの方針に基づき、両病院間で診療機能の再編がなされたところであるが、診療機能や施設面で次のような課題が新たに生じている。

塚口病院の課題

ア 小児医療や周産期医療への対応の困難化

近年急速に進んでいる医師の診療科偏在や地域偏在の影響等により、麻酔科や内科などの医師確保が困難になっていること等から、小児の救命救急医療やハイリスク妊娠等周産期医療への対応が困難になっている。

イ 救急医療への対応の困難化

麻酔科などの医師確保が困難になっていること等から、小児医療や周産期医療におけると同様に、成人への救急対応も困難になっており、救急患者の受入数も減少している。

【塚口病院における医師数(正規+専攻医)の推移】

区分	H18	H20	差引	備考
麻酔科	0	0	0	非常勤で対応
内科系	15	11	4	内科 2、消化器科 2
外科系	10	8	2	外科 1、整形外科 1
産婦人科	9	9	0	
小児科	12	13	+1	
小児外科	-	2	+2	H19.4 開設

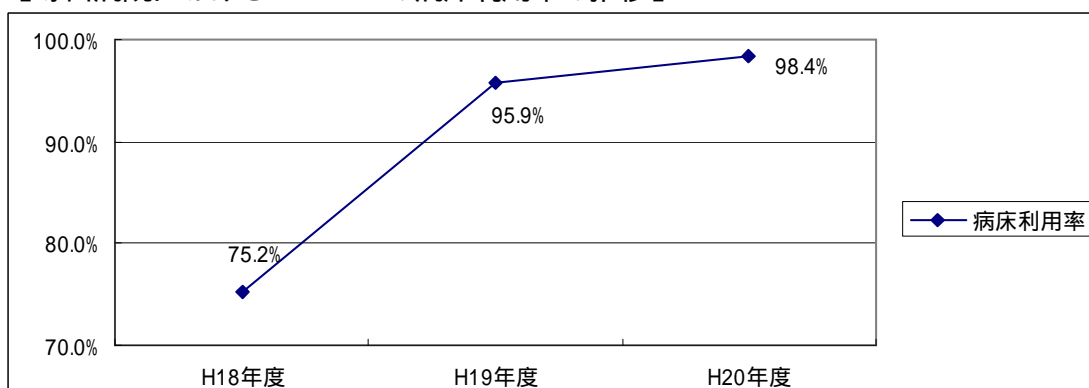
ウ 建物の老朽化・狭隘化

新生児への集中治療の必要性が高まっている中で、建物の老朽化・狭隘化により、NICUの増床等の機能充実が困難な状況になっている。

【塚口病院における周産期医療に係る病床の状況】

区 分	病床数
M F I C U (母体・胎児集中治療管理室)	0 床
一般産科病床	4 6 床
N I C U (新生児集中治療室)	6 床
G C U (N I C U に併設された新生児の回復期治療室)	1 4 床

【塚口病院におけるNICUの病床利用率の推移】

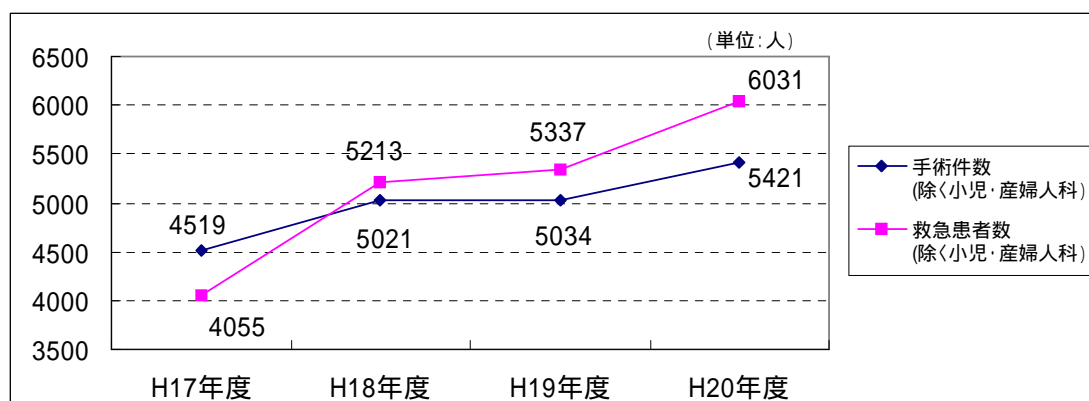


尼崎病院の課題

ア 救急患者や手術件数の増加への対応

近年救急患者や手術件数が大幅に増加している中で、現在の施設のもとでは、それらへの対応が困難な状況になっている。

【尼崎病院における手術件数・救急患者数の推移】



【「県立病院の基本的方向」に基づく主な診療機能の充実内容】

区分	尼崎病院	塚口病院
基本的方向	総合型の病院としての診療機能を充実・強化する	総合型の病院から成育医療を中心とした病院へ、診療機能を充実する
診療機能の充実内容	<p>肺がん医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塚口病院から呼吸器科の移管 ・呼吸器外科の設置 <p>脳血管疾患医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> （・塚口病院から脳神経外科の移管） <p>感染症医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> （・第2種感染症病床の整備） 	<p>小児医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児救急輪番日の拡充 ・小児外科の設置 ・阪神地域小児科二次救急後方支援 ・尼崎病院から小児科を移管 <p>周産期医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎病院から産婦人科を移管 ・地域周産期母子医療センターの指定 <p>成育医療・性差医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心療内科、アレルギー科、泌尿器科の設置

2 必要な診療機能

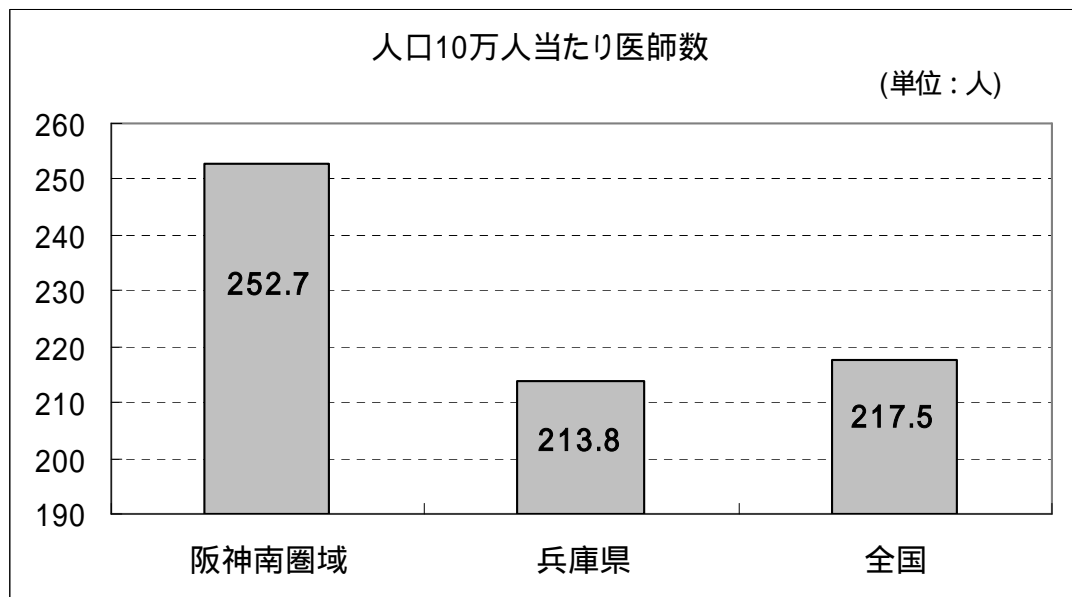
(1) 阪神南圏域の医療の現状

阪神南圏域の医療状況は、医師数が全県の平均を上回っていることや、大きな規模の病院が多いこと、同様の診療機能を有する病院が多いことなどから、比較的恵まれた状況にある。

阪神南圏域の医療の状況

ア 医師数

人口10万人あたりの医師数は、ほぼどの診療科も全県の平均を上回っており、他圏域と比べて恵まれた医療環境にある。



イ 病床数

阪神南圏域においては若干既存病床数が基準病床数を下回っている。

(基準病床数：H18.4改定、既存病床数：H20.10現在)

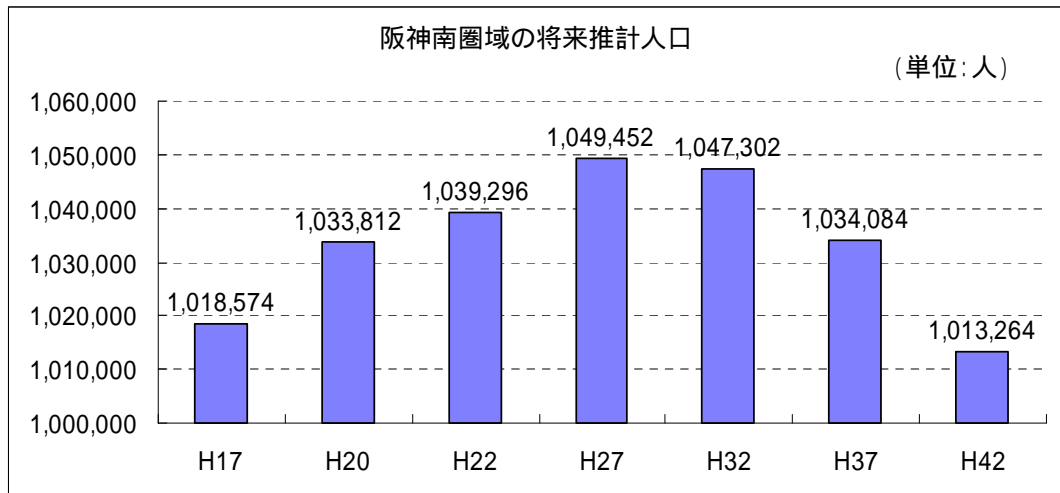
区分	一般・療養病床			精神病床		結核病床		感染症病床	
	基準 病床数	既存 病床数	うち療 養病床	基準 病床数	既存 病床数	基準 病床数	既存 病床数	基準 病床数	既存 病床数
圏域	8,650	8,628	2,419		796		60		8
全県	50,849	52,775	14,815	11,151	11,506	339	391	56	52

基準病床数 ... 国の定める算定式に基づき、年齢階級別人口、年齢階級別退院率、平均在院日数、病床利用率等から算出

阪神南圏域の人口及び入院患者数の見通し

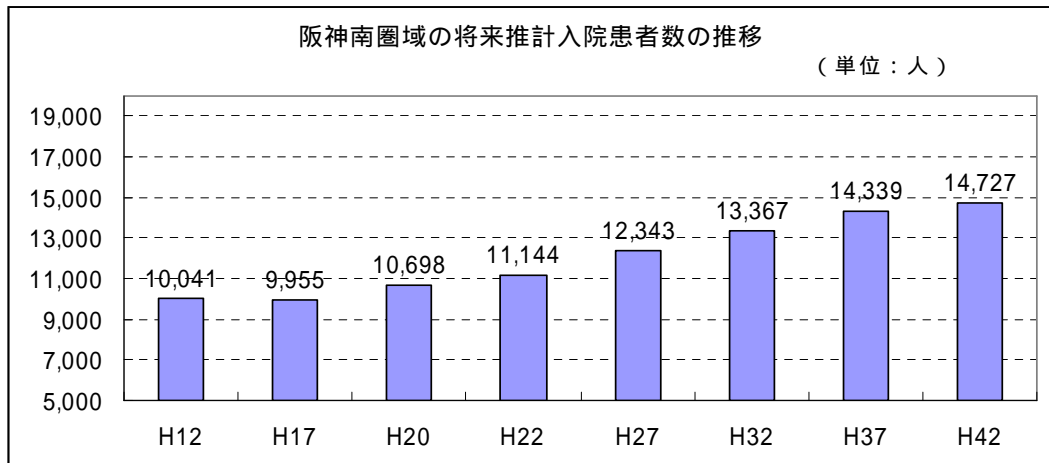
ア 人口

全県の人口が減少していく中で、阪神南圏域では今後も漸増傾向をたどるが、平成 27 年ごろを境に減少に転ずる。



イ 入院患者数

現在の受療率を基に試算すると、高齢化に伴い、阪神南圏域の入院患者数は増加していくが、平成 37 年度～42 年度ごろには患者数の伸びはやや小さくなる。



阪神南圏域における主な病院の状況等

ア 病院の状況

阪神南圏域は比較的大きな規模の病院が多い。また、医療機関の密度が高く、圏域内の主な病院間において診療科目の重複が見られるが、その一方で、尼崎病院や塚口病院でのみ提供されている診療科目もある。

【阪神南圏域の診療科目の状況】

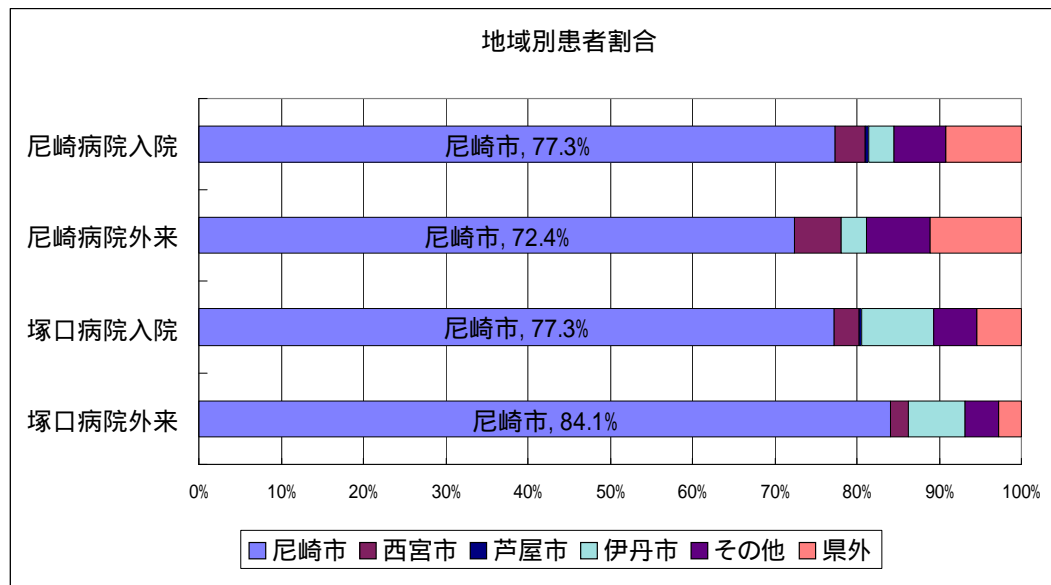
区分	主な診療科目												
	内科	心療内科	精神科	神経内科	呼吸器(内科)	消化器(内科)	循環器(内科)	アレルギー科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科
阪神南圏域の病院数	8	1	3	3	2	4	4	2	8	8	8	3	5
尼崎病院													
塚口病院													

区分	主な診療科目												
	呼吸器外科	心臓血管外科	小児外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	歯科	歯科口腔外科
阪神南圏域の病院数	2	3	2	6	7	7	8	8	7	8	8	3	4
尼崎病院													
塚口病院													

阪神南圏域の病院数は、一般病床200床以上の病院のうち当該診療科目を標榜している病院数。
 尼崎病院の小児科は小児循環器科のみ。

イ 両病院の患者の動向

尼崎病院、塚口病院とも、入院も外来も尼崎市内からの患者が7～8割程度を占めている。



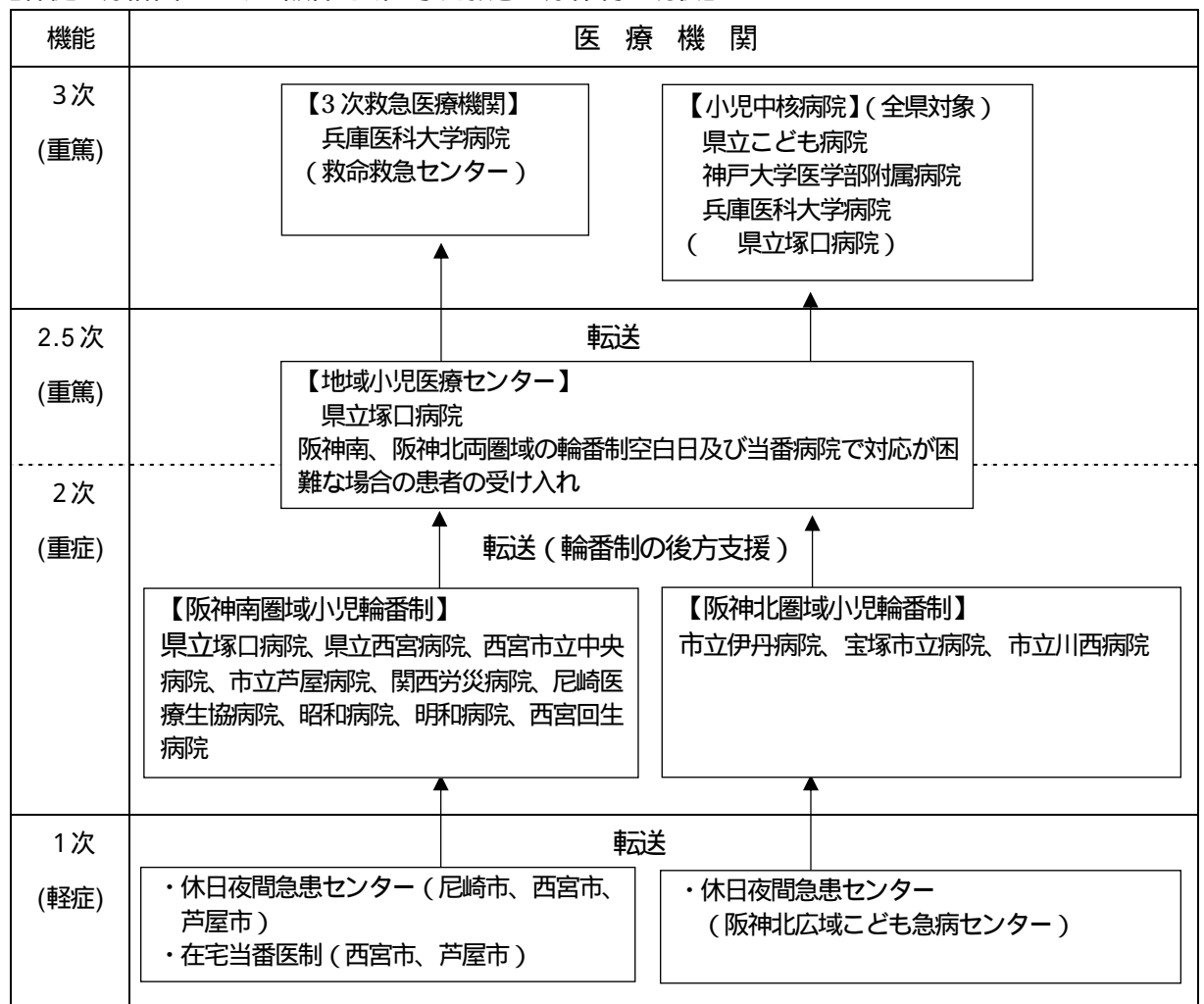
(2) 疾病別医療提供体制における現状と課題

小児医療

阪神地域の基幹病院である塚口病院において、麻酔科医の不在等により24時間365日体制の救命救急医療が未実施となっており、小児救命救急医療の確立が求められている。

区分	現 状	課 題
尼崎	小児循環器内科で心疾患のみに対応	小児科がないため、心疾患以外の治療不可(H18 小児科を塚口病院へ移管)
塚口	阪神地域の小児2次救急後方支援 阪神南小児輪番 地域小児医療センター (小児専門医療を実施し、24時間) (365日小児救急への対応が可能)	麻酔科医の不足等による24時間365日体制の救命救急医療の未実施 (小児中核病院未指定であり、指定に向けた機能充実が必要)
圏域	小児中核病院：兵庫医大	阪神北圏域における輪番制空白日等小児救急医療体制の脆弱化 小児救命救急医療の充実

【保健医療計画における阪神地域の小児救急医療体制の現状】



県立塚口病院は今後機能充実を図り、小児中核病院の役割を果たす方向で検討・調整を進める

周産期医療

阪神地域において産婦人科の診療制限を行う病院が増加する中、地域における周産期医療体制の充実に向けた見直しが必要となっている。現在地域周産期母子医療センターである塚口病院においても、関連診療科等の不在による合併症妊婦の受け入れができない状況となっているなど、合併症妊婦等のハイリスク妊娠の対応が課題となっている。

区分	現 状	課 題
尼崎	実施していない	(H18 産婦人科、小児科を塚口病院へ移管)
塚口	地域周産期母子医療センター (2~3次周産期医療の提供) NICU利用率の向上	脳神経外科、心臓血管外科等の不在により合併症妊婦(脳血管障害、急性心疾患、交通外傷等)への対応不可 (H19 尼崎病院へ脳神経外科を移管) NICUの慢性的な満床化
圏域	地域周産期母子医療センター:県立 塚口、兵庫医大 出生数の増加	産婦人科の診療制限を行う病院の増加

【阪神地域の産婦人科の診療制限の状況】

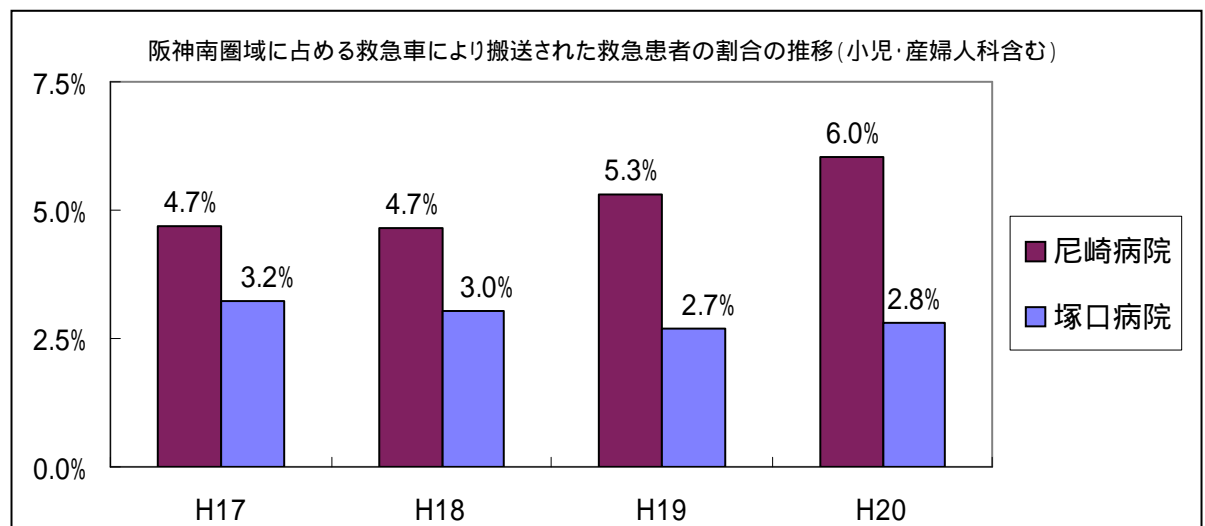
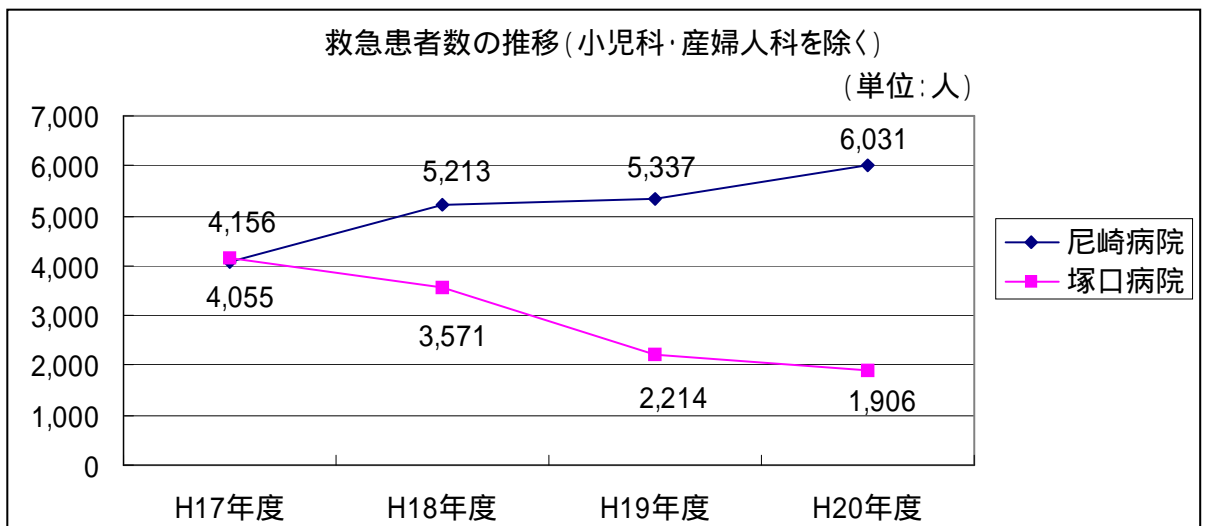
(平成21年12月現在)

区 分	公 立 病 院		公的・民間病院
診療休止	1	西宮市立中央病院(H18.3より)	0
分娩休止	1	宝塚市立病院(H20.2より)	0
分娩制限	2	市立伊丹病院(H17.4より月30件程度) 市立川西病院(H20.4より月20件程度)	2
制限なし	4	県立塚口病院、県立西宮病院 市立芦屋病院、三田市民病院	4
合計	8		6

救急医療

阪神地域内の他病院における救急受入数が減少（受け入れ困難化）している中、救命救急医療体制の確立が求められている。

区分	現 状	課 題
尼崎	救急患者数[除く小児、産婦人科]の増加 救急車搬送数の増加	2次輪番、3次救急病院等に未指定小児、産婦人科の救急患者の受入不可 (H18 小児、産婦人科を塚口病院へ移管)
塚口	救急患者数[除く小児、産婦人科]の減少 救急車搬送数の減少	2次輪番、3次救急病院等に未指定小児、産婦人科以外の救急受入減少 (H19 脳神経外科、呼吸器科を尼崎病院へ移管)
圏域	救命救急センター：兵庫医大 救急車による搬送人員の減少	他病院における救急受入数の減少 (受け入れ困難化)



4 疾病

関連診療科と連携した合併症への対応や、迅速な 24 時間対応体制の充実等が求められている。

ア がん医療

県内並びに阪神南圏域における第 1 位の死亡原因の疾病ががんであることから、専門的ながん診療機能の充実が求められている。そのため、肺がんや胃がんなど我が国に多いがんに加え、婦人がん、小児がん等に対する集学的治療を提供できる医療機関の必要性が高まっている。

区分	現 状	課 題
尼崎	我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳、食道）の集学的治療の実施 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施	小児科、産婦人科がないため、婦人がん（子宮、卵巣）、小児がんへの対応不可（H18 小児科、産婦人科を塚口病院へ移管） 地域がん診療連携拠点病院未指定（圏域内の 2 番手的位置）
塚口	乳がん、子宮がん等への集学的治療の実施	呼吸器科がないため、肺がんの治療不可（H19 呼吸器科を尼崎病院へ移管） 緩和ケアチームが不在
圏域	地域がん診療連携拠点病院：関西労災、兵庫医大 緩和ケア病棟：尼崎医療生協病院（20 床）、立花病院（10 床）	-

【阪神南圏域の専門的ながん診療機能を有する医療機関】

関西労災病院、兵庫医科大学病院、県立尼崎病院、県立西宮病院、西宮市立中央病院、（県立塚口病院）

[は地域がん診療連携拠点病院、（ ）書きは、緩和ケアチームを有しない病院]

イ 脳疾患医療

脳血管疾患による死亡率を低減するとともに、後遺障害を最小限にとどめるため、脳卒中中の専門治療や血栓溶解療法（t - P A）治療の迅速な 24 時間対応が可能な医療提供体制の充実が課題となっている。

区分	現 状	課 題
尼崎	来院後 2 時間以内の外科的治療（24 時間可能） 急性期リハビリテーションの実施	血栓溶解療法（t - PA）治療、検査（CT、MRI、アンギオ等）の迅速対応不可（オンコール対応）
塚口	実施していない	（H19 尼崎病院へ脳神経外科を移管）
圏域	t - PA、検査等の当直対応病院： 県立西宮、兵庫医大、関西労災、西宮協立	-

【阪神南圏域の脳卒中中の急性期医療の機能を担う医療機関】

県立尼崎病院、関西労災病院、県立西宮病院、西宮協立脳神経外科病院、兵庫医科大学病院、西宮渡辺病院、合志病院

[は t - PA、検査等の当直対応病院]

ウ 心疾患医療

県内並びに阪神南圏域における第2位の死亡原因の疾病である急性心筋梗塞の死亡率を低減するため、尼崎病院等において急性期医療を引き続き提供するとともに、回復期医療、リハビリ等の再発予防のための医療を提供する医療機関との一層の連携体制の構築が必要である。

区分	現 状	課 題
尼崎	専門的検査、診療の24時間対応 経皮的冠動脈形成術等を年間500症例以上実施 心臓リハビリテーションの実施	-
塚口	内科的治療のみ実施	心臓血管外科がないため、内科的治療以外の対応不可
圏域	急性期医療機関：県立尼崎、関西労災、兵庫医大	-

【阪神南圏域の急性心筋梗塞の急性期医療の機能を担う医療機関】

県立尼崎病院、関西労災病院、兵庫医科大学病院

エ 糖尿病医療

糖尿病は、初期は自覚症状がないことが多いが、病状が進むと重篤な合併症を併発し、最終的には生命に重大な脅威を与える。そのため、糖尿病をはじめとする生活習慣病において、急性期医療からリハビリ、予防まで一貫して診断・治療・予防するシステムが求められている。

区分	現 状	課 題
尼崎	急性増悪時、専門治療、慢性合併症治療の提供	生活習慣病において、急性期医療からリハビリ、予防まで一貫して診断・治療・予防するシステムが必要
塚口	専門治療の提供	

【阪神南圏域の糖尿病の急性増悪時治療を担う医療機関】

県立尼崎病院、県立西宮病院、兵庫医科大学病院、尼崎中央病院、ほか16病院

【阪神南圏域の糖尿病の専門治療を担う医療機関】

県立尼崎病院、県立塚口病院、県立西宮病院、兵庫医科大学病院、ほか4病院

その他政策医療

政策医療等を提供するうえで、精神科医療の充実が求められている。

区分	現 状	課 題
尼崎	エイズ医療の提供 感染症医療の提供 臓器移植の実施 難病医療の提供 東洋医学の提供 人間ドックの実施	精神科の外来診療休止 (常勤医不在のため)
塚口	成育医療の提供 アレルギー疾患医療の提供 女性総合外来の実施	-

3 統合再編の基本的な考え方

(1) 両病院の統合

尼崎病院と塚口病院のお互いの診療機能の不十分な部分を補完するとともに特長をさらに生かすことができることや、医師をはじめとした医療人材の一層の有効活用や新たな医師人材の確保を図ることができることなどにより、阪神南圏域にとどまらず、阪神地域全体の懸案となっている医療課題の解決が可能になることから、両病院の統合を行うこととし、機能を再編したうえで、新たな場所に新病院を建設する。

(2) 新病院の主な役割

阪神地域の基幹病院として、総合的な診療機能を生かした、高度専門・特殊医療を中心とした政策医療を提供する。

総合的な救命救急医療体制の確立を図るため、周産期、小児、成人の救命救急医療を一体的に提供する。

医師の確保・育成を行うとともに、行政、大学等と連携し、医師派遣の拠点的機能を有するマグネットホスピタルとしての機能の確立を図る。

4 新病院における主な診療機能等

(1) 小児医療

これまで塚口病院が提供してきた阪神地域における小児医療の中核的な役割を維持するとともに、小児救命救急医療の24時間365日体制を確立するなど小児救急医療の一層の充実を図る。

(主な診療機能)

区 分	主な診療機能
継続	阪神南北圏域の小児2次救急後方支援 阪神南小児輪番
新規・拡充	小児救命救急医療の24時間365日体制の確立 小児中核病院の指定(麻酔科医等の充実、PICUの整備) 小児科及び小児循環器内科等による総合的な小児医療の実施

(2) 周産期医療

総合的な診療機能を生かすことにより、合併症妊婦(脳血管障害、急性心疾患、交通外傷等)への対応を充実するとともに、阪神地域において産婦人科の診療機能が低下している現状を踏まえ、NICUの増床など周産期医療体制の充実を図り、総合周産期母子医療センターの指定を目指す。

(主な診療機能)

区分	主な診療機能
新規・拡充	地域周産期母子医療センターから総合周産期母子医療センターへの指定 脳神経外科、心臓血管外科・循環器内科、産婦人科医等による重症妊娠中毒症、合併症妊娠、胎児異常等ハイリスク妊娠への対応 未熟児等への対応の充実(NICUの増床)

(3) 救急医療

圏域内の病院において救急患者受入が困難化するなど、救急医療の充実が喫緊の課題となっていることから、ER総合診療部門の新設、3次救急医療の提供等救急医療体制の充実を図る。

(主な診療機能)

区分	主な診療機能
新規・拡充	ER総合診療部門の設置(阪神地域の救急機能向上) ・救急患者等の初期診断及び治療を総合診療医に一元化 ・断らない救急体制の確立 多様な専門機能を持つ医師等の集約による成人、周産期、小児に対する総合的な救急医療の提供(合併症への対応を含む) 救命救急センターの指定による3次救急医療の提供

(4) 4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)

尼崎病院及び塚口病院がこれまで担ってきた高度専門医療を引き続き提供するほか、救急医療体制の充実、総合的な診療機能の活用等により一層の充実を図り、圏域内における急性期医療の拠点病院としての役割を果たす。

(主な診療機能)

区分		主な診療機能
がん医療	継続	我が国に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳、食道)の集学的治療の実施 婦人がん(子宮、卵巣)の集学的治療の実施 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施
	新規・拡充	婦人科及び関連診療科による婦人がん患者の合併症への対応、術後管理等の充実 小児血液悪性腫瘍への対応等、小児がん医療の充実 地域がん診療連携拠点病院の指定(研修、相談事業等の充実)

区 分		主な診療機能
脳疾患医療	継続	来院後 2 時間以内の外科的治療(24 時間可能) 急性期リハビリテーションの実施
	新規・拡充	体制の見直しによる血栓溶解療法(t - PA) 治療、検査(CT、MRI、 アンギオ等)のより迅速な対応(検査等の実施体制の充実)
心疾患医療	継続	専門的検査、診療の 24 時間対応 心臓リハビリテーションの実施
糖尿病医療	新規・拡充	総合的生活習慣病診療部門の新設

(5) その他政策医療等

「兵庫県保健医療計画」において両病院に示された役割を果たすため、必要な医療を引き続き提供するとともに、高度専門・特殊医療を支える診療機能の一層の充実を図り、より質の高い医療を提供する。

(主な診療機能)

区 分	主な診療機能
継続	エイズ医療の提供 感染症医療の提供 臓器移植の実施 難病医療の提供 東洋医学の提供 成育医療の提供 アレルギー疾患医療の提供 女性総合外来の実施 地域医療支援病院として地域医療機関との役割の明確化と連携の推進
新規・拡充	精神医療の提供(常勤医の確保による診療機能の充実) 麻酔医療の充実

(6) 医療人材の確保・育成

新病院において診療体制の充実や施設・設備の充実等を行い、医師の勤務環境の魅力向上を図るなどにより、若手医師等の医療人材の一層の確保に努めるとともに優秀な人材の養成に努める。

また、マグネットホスピタルとしての役割が果たせるよう、大学等とも連携し、必要な機能の整備を図る。

5 施設整備の概要

(1) 施設整備方針

高度専門・特殊医療等への対応

新病院において提供する高度専門・特殊医療を中心とした政策医療の提供に必要な施設整備を行う。なお、救命救急センター等、国の指定を受けるために必要な基準が設けられているものについては、当該基準に沿った整備を行う。

療養環境の向上

患者・家族の視点を配慮したユニバーサルデザインを採用した施設整備を行うとともに、安心・快適に治療が受けられるよう、アメニティへの配慮、待ち時間対策の推進、患者動線の短縮・簡素化等につながる整備を図るなど、療養環境等の向上を図る。

効率的な病院運営

電子カルテシステム等により医療情報の一元化、医療機器・材料等の効率的な管理体制の確立、関連部門の集中配置、弾力的な運用が可能な施設構造等を図るなど、効率的な病院運営につながる施設等の整備を行う。

(2) 病床規模

新病院が位置する阪神南圏域の将来推計人口は、微増の傾向が平成 27 年度頃を境に減少に転ずると見込まれているが、高齢化にともない、受療率の高い層の人口が増加することから、慢性期疾患を中心として入院患者数は増加するものと見込まれる。

一方、医療機関相互の役割分担の明確化による更なる連携の促進、医療技術の進歩、効率的な治療等が行われている中で、急性期病院においては患者の在院日数の短縮化が促進されている状況にある。

これらの状況に加え、診療機能の充実内容や現在の患者数をもとにした今後見込まれる医療ニーズの動向も踏まえ、新病院の病床規模は、700床程度を基本とし、基本計画策定時に詳細な検討を行う。

【参考】

尼崎病院と塚口病院における平成 20 年度の 1 日あたり入院患者数 676 人に対し、平成 25 年度の入院患者数は、

少子化の進展

小児医療の充実

周産期医療の充実

救急医療の充実

高齢化の進展等

医療機関の役割分担

平均在院日数の短縮

等の要素が見込まれ、これらを加減すると概ね 700 人程度となる。

(3) 施設概要

区 分	内 容	
病床規模	700床程度	
	・うち救命救急センター：30床程度 ・うち2類感染症病床：8床程度（現行病床数程度を維持）	
主な施設	・救命救急センター ・小児救急医療センター ・総合周産期母子医療センター ・高度専門医療センター（心疾患、脳血管疾患、生活習慣病センター等）等	
診療科目	内科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、心療内科、感染症内科
	外科	外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科
	上記以外の診療科目	精神科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、（新設）救急科

詳細は基本計画策定時に検討

(4) 立地場所

尼崎病院及び塚口病院で受診している患者等の新病院への通院の利便性にも配慮のうえ、尼崎市市内において次の条件に適合する用地を確保する。

- ・診療機能の充実を図る上で十分な面積を有すること。
- ・公共交通機関等によるアクセスや療養環境に優れていること。

(5) 整備スケジュール

新病院の整備に向け、診療体制や建築計画、外来・病棟・手術等の各部門別の整備方針や機能等の検討を行うとともに、施設・設備整備や用地の選定、財源等についてはさらに詳細な検討を進め、平成22年度に基本計画を策定する。

新病院の建設スケジュールについては、できる限り早期の供用開始を目指すこととし、基本計画において定める。

6 統合再編にあたっての諸課題

(1) 整備財源の確保

新病院の建設に当たり、用地の確保や地域医療再生臨時特例交付金（地域医療再生基金）の利用に加え、両病院の跡地等の売却を適切に行うなど、整備財源の確保に努める。

(2) 跡地利用

跡地利用については、以下の方針に従って、塚口病院用地を一部所有している地元尼崎市とも協調のうえ、具体的な検討を進めていく。

病院の跡地利用にあたっては、病院の移転に伴う地域医療への影響を考慮して、現在の両病院が有する許可病床数から新病院の整備病床数を減算した 200 床程度の病床の活用を基本とし、両病院の跡地に医療機関や福祉施設等の誘致に努める。

新病院の整備財源を確保するため、現有不動産の適切な価格による売却方法を検討する。

(3) 両病院の機能連携

両病院の統合の効果を早期に発揮させるため、病院整備に先行して診療機能面や管理運営面における機能連携の取り組みを進めていく。

(4) 地元自治体との協調

両病院は、尼崎市において市民病院が設置されていない中で、尼崎市民の多くの医療ニーズに応えてきたこと等を踏まえ、尼崎市から様々な支援を得つつ、運営が行われてきた。

新病院の整備にあたっては、用地の確保が前提となることから、適切な用地の確保をはじめ、尼崎市と協調して推進していく。